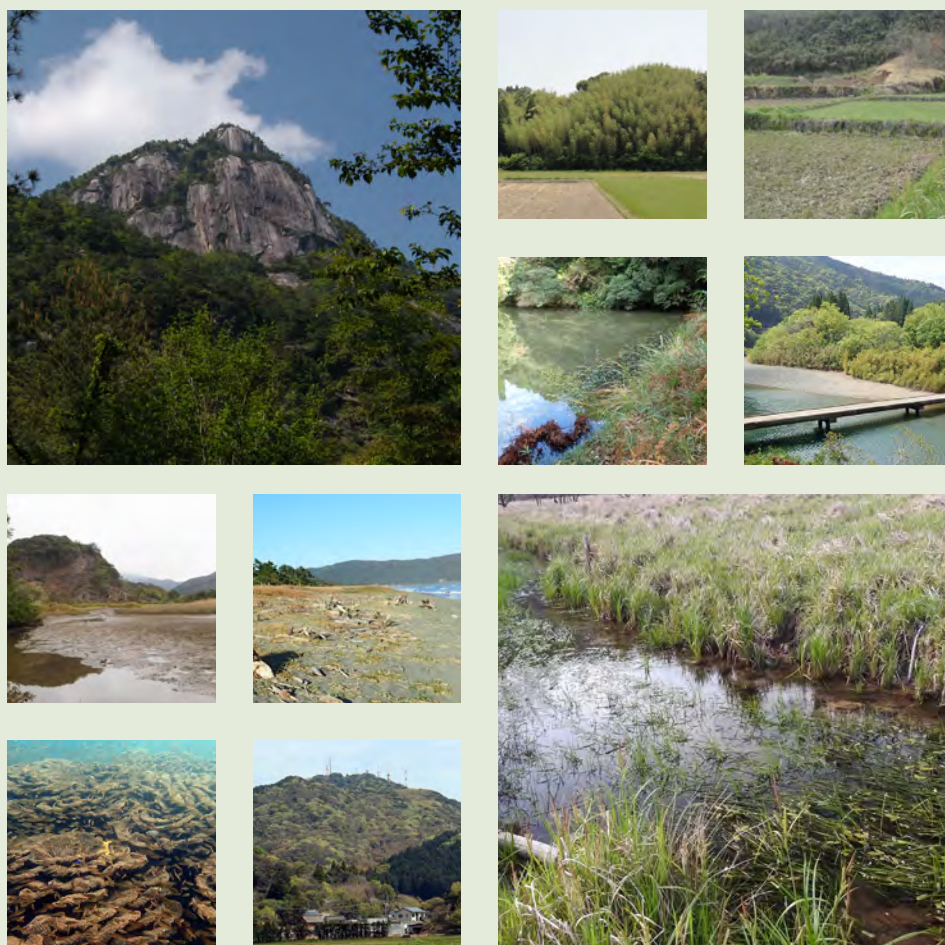


延岡市 自然環境 ガイドブック

延岡市自然環境モニタリング調査
(2017年度 - 2020年度)



延岡市自然環境モニタリング調査とは

自然環境調査の目的

延岡市には豊かな自然環境が残されており、たくさんの野生動植物が生息・生育しています。市では、野生動植物の分布状況を把握するため、自然環境モニタリング調査を行っており、調査結果を自然環境調査報告書としてまとめています。

このガイドブックでは、2017年度から2020年度にかけて行った自然環境モニタリング調査の結果をまとめています。

調査結果の概要

調査は、維管束植物、哺乳類、鳥類、爬虫類・両生類、魚類(淡水産・汽水産)、昆虫類(チョウ・ガ・カメムシ・コウチュウ)、甲殻類(淡水産・汽水産)、貝類(陸産・淡水産・汽水産)、サンゴ類、その他無脊椎動物(汽水産)を対象分類群として行いました。各分類群の調査結果の概要は次のとおりです。

維管束植物

200種を確認
重要種は183種を確認

哺乳類

38種を確認
重要種は10種を確認

鳥類

233種を確認
重要種は69種を確認

爬虫類・両生類

30種を確認
重要種は11種を確認

昆虫類

(チョウ) 120種を確認
重要種は39種を確認
(ガ) 831種を確認
重要種は7種を確認
(カメムシ) 431種を確認
重要種は11種を確認
(コウチュウ) 1097種を確認
重要種は69種を確認

魚類

(純淡水産) 約31種を確認
重要種は11種を確認
(汽水産) 63種を確認
重要種は12種を確認
※汽水域を利用する河口魚・回遊魚

甲殻類

(淡水産) 9種を確認
重要種は3種を確認
(汽水産) 130種を確認
重要種は41種を確認

貝類

(陸産) 68種を確認
重要種は21種を確認
(淡水産) 12種を確認
重要種は6種を確認
(汽水産) 137種を確認
重要種は46種を確認

サンゴ類

101種を確認
重要種は3種を確認

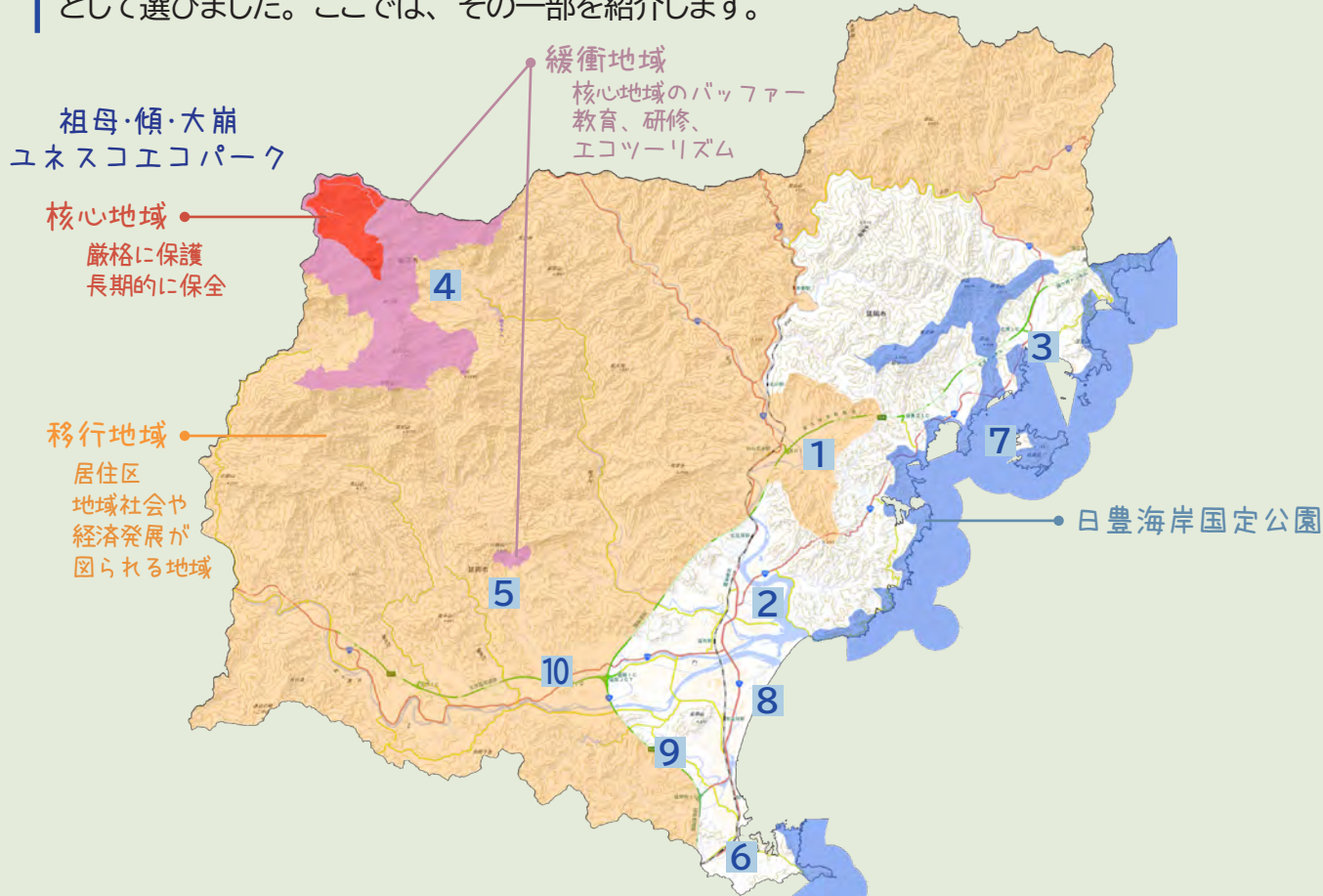
その他無脊椎動物(汽水産)

4種を確認
重要種は4種を確認

重要な生育地・生息地

市内の重要な生育地・生息地

延岡市には、「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」として世界に認められた特色ある自然や「日豊海岸国立公園」に指定されたエリアをはじめ、豊かな自然環境が残されています。こうした自然環境において、特に豊かな生態系が形成されている地域を「重要な生育地・生息地」として選びました。ここでは、その一部を紹介します。



	重要な生育地・生息地	確認されている重要種										自然環境タイプ
		植物	哺乳類	鳥類	両爬虫類	魚類	昆虫類	甲殻類	貝類	サンゴ類	その他	
1	北川湿原	●		●	●		●					湿原
2	友内川	●		●		●						河川
3	熊野江川河口海浜域	●				●	●	●	●		●	河口・干潟
4	大崩山一帯	●	●	●	●		●					自然林
5	行藤山	●	●	●			●		●			自然林
6	櫛津干潟・妙見湾	●				●		●	●			河口・干潟
7	島野浦島及びその周辺海域	●					●		●	●		海域(サンゴ礁)
8	長浜、方財、新浜の砂浜	●			●		●					海域(砂浜)
9	冷尻地区(沖田川)の用水路								●			ため池・水路
10	行藤・舞野・貝の畑周辺の里山	●	●	●	●		●					二次林

生物多様性が豊かな地域

市内の自然環境タイプ

数千の島々からなり南北約3000kmに及ぶ国土を有する日本には、森林、湿原、河川、干潟、サンゴ礁などのさまざまな自然環境があり、それぞれの自然環境に応じて豊かな生態系が形成されています。こうした豊かな自然環境のもと、日本には9万種以上の生き物がいます。

海、山、川の大自然に恵まれた延岡市においても、森林や河川、湿地、サンゴ礁などのさまざまな自然環境があり、それぞれの自然環境に対応したさまざまな生態系が形成されています。こうした豊かな自然環境をおおまかに5つのタイプに分類し、それぞれの自然環境のタイプと代表的な種についてまとめました。



延岡市の自然環境タイプ

大分類	小分類	代表的な地域
奥山エリア	自然林	大崩山、鬼の目山、行藤山
里地里山エリア	二次林	行藤・舞野・貝の畑地区、藤ノ木地区
	農地・草地	山口原地区、高平山
	ため池・水路	稲葉崎地区ため池群、冷尻地区用水路
河川・湿原エリア	河川	小川、沖田川、北川、友内川
	湿原	北川湿原（家田湿原・川坂湿原）
沿岸エリア	河口・干潟	熊野江川河口干潟、櫛津干潟
	海岸（砂浜・岩礁）	長浜海岸、熊野江海岸、赤水地区
	海域（サンゴ礁）	島野浦島周辺
市街地エリア	市街地緑地	愛宕山、城山

奥山エリア

自然林

代表的な地域【大崩山】



大崩山一帯の山岳地帯は、生物多様性の豊かな原生的な天然林の森林生態系が形成され、多くの希少野生動植物が生息・生育しており、市内で最も重要な生息地・生育地のひとつとなっています。貴重な生態系を保護するため、森林生態系保護地域に指定され、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの核心地域や緩衝地域となっています。

エリアにおける代表的な種



ササユリ



ツクシトウヒレン



ツチビノキ



ニホンカモシカ



クロホオヒゲコウモリ



ソボサンショウウオ



クマタカ



左：イシカワカメムシ
右：カドムネシカカメムシ

里地里山エリア

二次林

代表的な地域【行滕・舞野・貝の畑地区】



行滕・舞野・貝の畑地区では持続的な農業により良好な里地里山環境が保たれています。特に行滕地区は、環境省が選定した「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されています。キンラン、タイリンアオイ、トノサマガエル、サシバといった里地里山を代表する多くの希少野生動植物が生育・生息しています。

エリアにおける代表的な種



キンラン



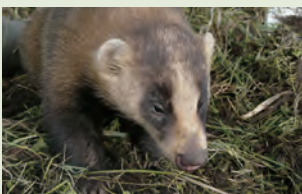
タイリンアオイ



ヒメイカリソウ



コバナナベワリ



アナグマ



トノサマガエル



サシバ



タガメ

里地里山エリア

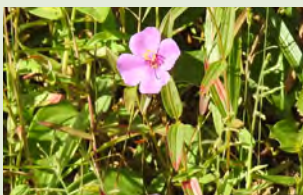
農地・草地

代表的な地域【山口原地区】



人間が農業で利用している農地や草地も、重要な生態系のひとつです。定期的な維持管理により、植物の遷移が抑えられ、人間の生産活動によって草地環境が維持されています。そのような場所では、耕作後の水田にも様々な植物が生育しており、希少な植物にとって、重要な生育地のひとつになっています。

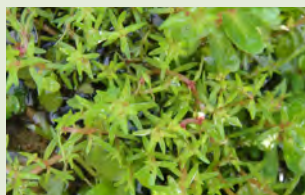
エリアにおける代表的な種



ヒメノボタン



マルバノサワトウガラシ



ミズマツバ



ヒメコウガイゼキショウ



ミズネコノオ



カヤネズミ



アカハライモリ



タテハモドキ

里地里山エリア

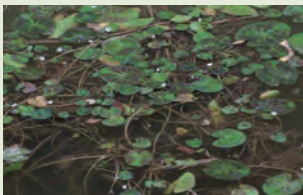
ため池・水路

代表的な地域【稲葉崎ため池群】



ため池は農業用水を確保するために人工的に作られた池のことです。稲葉崎には8か所の池が点在しており、周辺には湿地が形成されています。ため池や湿地に自生する希少な植物が見られるほか、現在減少が著しい水生昆虫類も確認されています。将来にわたって守る必要がある自然環境のひとつです。

エリアにおける代表的な種



ヒメシロアサザ



コウホネ



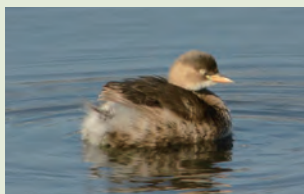
ミズオオバコ



サクラバハンノキ



チヨウジソウ



カイツブリ



タイコウチ



マルタニシ

河川湿原エリア

河川

代表的な地域【小川】



北浦町から北川町にかけて流れる小川は、良好な水質を保っており、さまざまな動植物が生育・生息しています。とくにゲンジボタルの生息に適した環境が保たれており、日本有数のホタルの鑑賞地として親しまれています。また、周辺の溪畔林や広葉樹林との一体感は景観としても素晴らしく、美しい河川景観が保たれています。

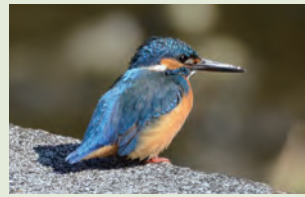
エリアにおける代表的な種



ウバタケニンジン



オシドリ



カワセミ



ヤマセミ



カワガラス



カジカガエル



ニホンイシガメ



ゲンジボタル

河川湿原エリア

湿原

代表的な地域【北川湿原】



家田湿原と川坂湿原があり、地元住民の営みと共存した良好な里山の水辺環境と湿地環境が残されています。多くの希少な動植物が生息・生育しており、国内最大級のサイコクヒメコウホネとオグラコウホネの群落があります。周辺の里山も含めて希少な植物が多数生育しており、宮崎県の重要生息地に指定されています。

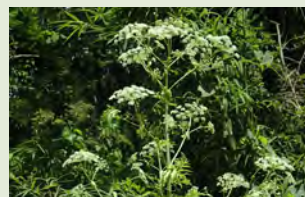
エリアにおける代表的な種



サイコクヒメコウホネ



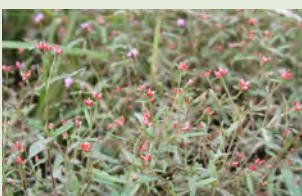
オニナルコスゲ



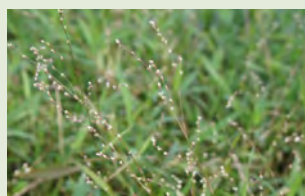
ヨロイグサ



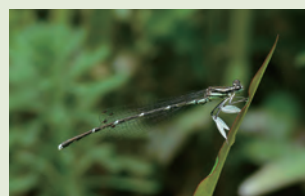
ハタバカンガレイ



サデクサ



ヌカポタテ



グンバイトンポ



ニッポンミズスマシ

沿岸エリア

河口・干潟

代表的な地域【熊野江川河口】



河口域には生物多様性の豊かな河口汽水域環境が形成され、種名に地名を含むクマノエミオスジガニをはじめ、ゴマハゼやチクゼンハゼなどの魚類、塩沼植物のハマサジなどが生息・生育しています。日豊海岸国定公園に指定されている海浜域にも多様な生態系が形成されており、宮崎県で最も重要な河口干潟のひとつです。

エリアにおける代表的な種



ハマサジ



ハママツナ



ハマボウ



オオソリハシシギ



ゴマハゼ



チクゼンハゼ



クマノエミオスジガニ



ヒモイカリナマコ
ヒモイカリナマコツマミガイ

沿岸エリア

海岸（砂浜・岩礁）

代表的な地域【長浜海岸】



アカウミガメの貴重な産卵場所となっており、「アカウミガメ及びその産卵地」として県の天然記念物に指定されています。海岸林から砂浜へと続く連続した植生帯は非常に貴重で守られるべき自然景観です。海岸沿いには砂丘が続き砂浜海岸特有の生態系が形成されており、砂浜を利用するイカリモンハンミョウやシロチドリが生息しています。

エリアにおける代表的な種



ハマボウフウ(砂浜)



ハマニガナ(砂浜)



シロチドリ(砂浜)



アカウミガメ(砂浜)



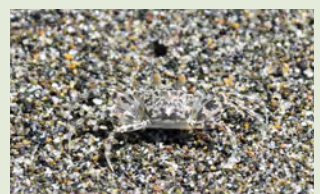
タワヤモリ(岩礁)



イカリモンハンミョウ(砂浜)



シロヘリハンミョウ(岩礁)

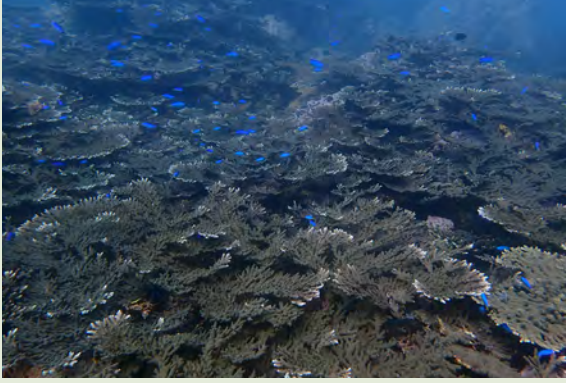


スナガニ(砂浜)

沿岸エリア

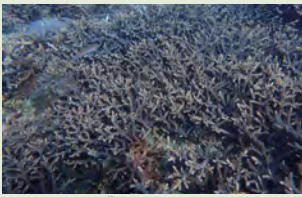
海域（サンゴ礁）

代表的な地域【島野浦島周辺】



宮崎県内最大の島で、島の周辺には造礁性イシサンゴ類が 80 種以上も生息しており、市内で最も重要なサンゴの生息地となっています。島の場所によって異なるサンゴ相が見られ、島西部の湾内にはクシハダミドリイシ(左写真) やエンタクミドリイシの大群落が見られる一方、島北部の湾にはオオスリバチサンゴの巨大群落などが見られます。

エリアにおける代表的な種



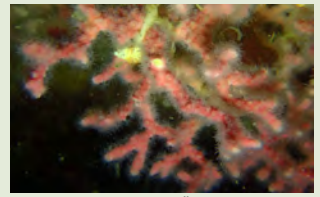
エダミドリイシ



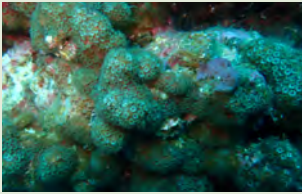
オオナガレハナサンゴ



タコノアシサンゴ



アサノエダサンゴ



カービエダサンゴ



ウェルスマスリサンゴ



タネガシマミドリイシサンゴ



オオスリバチサンゴ

市街地エリア

市街地緑地

代表的な地域【愛宕山】



市の中心部にある標高 251mの山で、市民の日常的な憩いの場として親しまれています。約 300ha の森林があり、ムササビが生息するほか、野鳥や昆虫類、植物が生息・生育しており、市街地の中で多くの生きものを観察できる貴重な場所となっています。

エリアにおける代表的な種



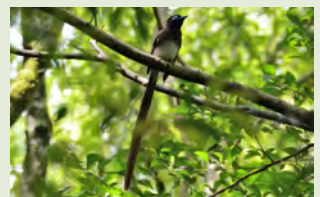
オオバナム



タニワタリノキ



ムササビ



サンコウチョウ



ルリビタキ



ニホントカゲ



ルリモンホソバ



ベニツチカメムシ

外来種問題を知っていますか？

外来種とは…

「外来種」とは、もともとその地域にいなかった生き物で、他の地域から人間の活動によって入ってきた生き物のことです。外来種に対して、もともとその地域に自然分布していた生き物は「在来種」といいます。

注意！国内由来の外来種もあります！

市内を流れる北川や細見川では、環境省が絶滅危惧種に指定している魚類であるオヤニラミが確認されています。オヤニラミはもともと延岡市を中心とする宮崎県北部には生息していなかった種であり、国内由来の外来種であると考えられています。

外来種による影響

外来種の中には、周囲の環境に次のような悪影響を及ぼす場合があります。

- ・在来種を食べたりすることで、その地域の生態系のバランスを崩してしまう。
- ・毒を持っていて刺したり、噛みついたりするなど人間の生命や身体に影響を与える。
- ・農産物を食べてしまい、経済的に悪い影響を与える。

特定外来生物に注意！

海外から日本に持ち込まれた外来種を「外来生物」といいます。外来生物のうち、特に注意すべき生き物が「特定外来生物」に指定され、**飼育・栽培、販売、譲渡、野外への放出**などが禁止されています。

市内で確認されている特定外来生物

【植 物】オオキンケイギク、オオフサモ

【哺乳類】アライグマ 【鳥 類】ソウシチョウ、ガビチョウ

【魚 類】ブルーギル、オオクチバス（ブラックバス）

【クモ類】ハイイロゴケグモ

オオキンケイギク



オオフサモ



アライグマ



ソウシチョウ



ガビチョウ



ブルーギル



オオクチバス



ハイイロゴケグモ

外来種対策の3つのルール

外来種が引き起こす問題は、外来種が定着してしまった後に明らかになることが多いです。このため、外来種による被害を予防するための3つのルールを正しく理解し、きちんと守ることが大切です。

1. 入れない

悪影響を及ぼす可能性のある外来種を入れない（持ち込まない）。

2. 捨てない

飼育・栽培している外来種を適切に管理し、捨てない・放さない・逃がさない。

3. 拡げない

すでに野外にいる外来種を他の地域に拡げない、増やさない。

生物多様性を守ろう！

生物多様性とは…

地球上の生き物は、長い歴史の中で、さまざまな環境に適応して進化してきました。現在、地球には 3,000 万種類ともいわれる多様な生き物がいます。これらの生き物たちは森や川、草原、湿地、海などいろいろな場所で、目には見えなくてもお互いにバランスを取りながら生きています。このように、たくさんの種類の生き物すべてが、複雑に関わりあって存在していることを「生物多様性」とよんでいます。わたしたち人間もその生き物のひとつなのです。

生物多様性の中で、わたしたち人間の生活は成り立っています。森は二酸化炭素を吸収し、酸素を作ります。自然は災害から人間を守ってくれています。また、食べ物やエネルギー、さまざまな製品の原料など、生活に欠かすことのできないものすべてが、生物多様性がもたらす自然の恵みです。これらの恵みは「生態系サービス」と呼ばれています。



イラスト出典：
環境省「こども環境白書 2016」

生物多様性を守るために私たちができること

今、たくさんの生き物が、人間の暮らしの影響で絶滅の危機にさらされており、生物多様性が失われつつあります。

生物多様性の4つの危機

1. 開発や乱獲による種の減少・絶滅、生息・生育地の減少
2. 里地里山などの手入れ不足による生態系バランスの変化
3. 外来種などの持ち込みによる生態系バランスの変化
4. 地球温暖化による環境の変化

このままでは、わたしたちは自然の恵みを受けられなくなってしまいます。生物多様性がもたらす自然の恵みをこの先も受けられるようにするために、一人ひとりが生物多様性との関わりを日常の暮らしの中でとらえ、実感し、身近なところから行動することが大切です。

STEP
1

気づこう

- ・身近な生き物を探してみよう。
- ・近所の公園や山、海、川に行って自然を感じてみよう。
- ・動物園や水族館、植物園などに行って、生き物の生態や面白さを実感しよう。

STEP
2

調べよう

- ・普段目にする生き物や身近な野生生物について調べてみよう。
- ・外来種とその問題点について調べてみよう。
- ・生き物と人の生活とのつながりを調べてみよう。

STEP
3

行動しよう

- ・ペットは最後まで責任をもって飼おう。
- ・自然や生き物の観察・保全・再生活動に参加してみよう。
- ・自然や生き物について体験したことや興味を持ったことを家族や友達に伝えてみよう。

のべおか里山種ガイドブックの紹介

本市では延岡市 SATOYAMA 保全推進会議のご協力をいただき、「のべおか里山種ガイドブック」を発行しています。このガイドブックは、本市の里山に生息する動植物を調査し、その代表的な種類を「のべおか里山種」として紹介しています。

祖母・傾・大崩ユネスコエコパークへ登録されたことで、延岡市では大崩山周辺の核心地域・緩衝地域に注目が集まっていますが、移行地域である里山にも、工業都市とは思えない大変多くの動植物が生息しており、生物多様性と持続可能な発展の調和が図られています。大変見ごたえのある一冊になっています。



ガイドブックのお問い合わせは延岡市生活環境課 (0982-22-7001) まで。

執筆者

延岡市 SATOYAMA 保全推進会議 生物多様性調査専門委員会
 専門アドバイザー

- (維管束植物) 成迫 平五郎
- (哺乳類) 岩切 康二
- (鳥類) 稲田 菊雄
- (爬虫類・両生類) 末吉 豊文
- (河川・河口域魚類) 村瀬 敦宣
- (昆虫類 (チョウ・ガ・カメムシ・コウチュウ)) 安本 潤一、柳田 恒一郎、小松 孝寛、岩切 康二
- (陸産貝類) 西 邦雄
- (淡水産生物 (甲殻類・貝類・魚類)) 中村 憲一
- (汽水・海水産甲殻類および貝類、その他無脊椎動物) 三浦 知之
- (サンゴ類) 深見 裕伸、高橋 勝栄

写真協力 (ハイイロゴケグモ) 串間研之
 編集協力 岩切環境技研株式会社

延岡市自然環境ガイドブック

延岡市自然環境モニタリング調査 (2017 年度～ 2020 年度)

編集 延岡市 SATOYAMA 保全推進会議
 発行 延岡市 市民環境部 生活環境課

〒882-8686 宮崎県延岡市東本小路 2 番地 1
 電話 0982-22-7001 FAX 0982-31-5515
 E-mail s-kankyo@city.nobeoka.miyazaki.jp